

令和3年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	53		学校名		茨城県立中央高等学校				課程		全日制			校長名		柴山 修二			
教頭名	広戸 純												事務長名		諸岡 重彰				
教職員数	教諭	35	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	6	実習教諭、実習講師、実習助手	1	外国語指導助手	1	事務職員	3	技術職員等	3	計	55	
生徒数	小学科				1 年		2 年		3 年		合計				合計 クラス数				
					男	女	男	女	男	女	男	女							
	普通				66	85	55	101	70	86	191	272	12						
	(普) スポーツ科学コース				30	6	28	7	29	9	87	22	3						

2 目指す学校像

- ・「『知 (virtue)』の中央」として、地域住民や中学校から信頼される学校
- ・自律ある行動ができる生徒の育成に努める明るい学校
- ・心のふれあいを大切にできる学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	・生徒の多様な進路希望に合わせた授業を展開している。 ・総じて真面目に学習に取り組んでいるが、個々の生徒の学習に対する取り組みの個人差が大きい。 ・家庭学習をほとんどしない生徒が3割以上いる。	・生徒一人一人の進路ニーズに合わせた授業内容・指導法の工夫改善 ・生徒の将来に繋がる意識の喚起と資格取得の推進 ・家庭での学習習慣の確立
進路指導	・4年制大学延べ合格者数60名、短大合格者数13名、専修学校合格者数90名であった。また、就職者21名の内定があり、就職希望者の内定率は100%であった。留学のための準備者が1名おり、進路決定率は100%を達成した。 ・各学年において、土曜課外、模擬試験、各種進路行事を計画的に実施している。	・生徒一人一人の高い進路目標の設定 ・共通テストに対応できる学力の定着 ・短期大学、看護専門学校や産業技術短期大学校などへの進学に対応できる学力養成 ・就職希望を実現する基礎学力の定着・生活指導など幅広い生徒のニーズに対応した進路指導 ・学費、奨学金制度、上級学校卒業後のライフプランまで含めた生徒・保護者両方への情報提供
生徒指導	・校舎内では、約5%の生徒に襟元の乱れなどがみられるものの、登下校では、頭髪、服装など、ほとんどの生徒が遵守している。 ・一部の生徒が、段階的指導を複数回繰り返している。 ・自転車通学者の約5%程度の生徒に、車道の右側通行、傘さし運転など道交法違反をしている場面が見られる。	・校舎内外の巡回指導や登校指導の充実 ・主体的に校則を順守できる意識の向上と公共の場でのマナーの高揚 ・教職員間の指導基準の再確認と一部の教職員に過度な負担がかからない生徒指導の徹底 ・反社会的な行動をする生徒を生まない雰囲気づくりや、安全・安心な教育環境の整備
特別活動	・文化祭やクラスマッチ等の行事を通して、連帯感や愛校心が高まっている。 ・部活加入率は30年度71%、元年度63%、2年度60%に下がっている。男子の加入率は70%を超えており女子の加入率の減少が著しい。 ・生徒会役員が学校説明会での生徒代表として貢献している。	・学校行事の内容の充実（文化祭、クラスマッチ等） ・部活動の活性化と強化 ・活発で自主的な生徒会活動の展開 ・キャリアパスポート活用の推進及び生徒のキャリア形成の促進
働き方改革	・週休日の部活動の指導も含めると、恒常的に勤務時間の超過が月45時間を超える教職員数が3割程度いる。 ・在校時間管理システム（きんむくん）の導入により、教職員の勤務時間管理の意識は少しずつ高まっている。	・業務量の適切な管理に努めるとともに、勤務時間管理の徹底及び超過勤務の時間の削減 ・教職員一人一人の意識改革とともに、組織的な取組の推進

4 中期的目標

- ・ICTの活用と、多様化した生徒の学習意欲を喚起するための指導方法の充実を図る。
- ・生徒の多様な進路選択を実現するために、個に応じたきめ細かな進路指導を行う。
- ・生徒指導の一層の充実を図り、規律正しい行動ができる生徒の育成に努め、明るい学校作りを目指す。
- ・活力ある学校づくりのために、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の充実を図るとともに、部活動の充実と強化を図る。
- ・教職員一人一人の意識改革を促し、「茨城県県立学校の教育職員の適切な管理に関する規則」の遵守に努め、長時間勤務の是正する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 生徒の主体的な学習を促す授業による「学力」の向上	(1) 個々の進路希望に応じて適切な学習指導を行う。 (2) 指導法研究により、教員の指導力向上に努め、分かる授業を展開する。 (3) 生徒の資格取得を促し、学力向上を図る。 (4) ICTを活用し、より効果的な教育環境を整える。
2 生徒の多様な進路選択をサポートする個別指導の充実	(1) キャリア教育の充実を図り、個々の生徒に応じた進路目標を設定する。 (2) 課外や模擬試験の計画的実施とフォローアップにより高大接続改革に対応する学力の向上を図る。 (3) 進路ガイダンス、インターンシップ、大学見学会など進路実現に必要な体験の機会を多く提供する。 (4) 面談期間だけでなく、必要に応じ個別面談を行い、進路意識の把握、醸成を図ると共に進路情報を提供し、家庭と連携した進路指導を心掛ける。
3 生徒一人一人の自律を促す段階的指導の充実	(1) 頭髮・服装・挨拶・言葉遣いなども含めた基本的生活習慣の確立・定着を図る。 (2) 毎日の授業への心構えと安全・安心な生活環境の充実を図る。 (3) いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。
4 ホームルーム活動や学校行事、部活動への自主的な参加促進	(1) 生徒が自主的、積極的に参加できる学校行事の運営を図る。 (2) 部活動の活性化を目指す。
5 働き方改革の推進	(1) 業務量の適切な管理のため、学校組織自体や各種委員会の在り方を検討し、運営の改善を図る。 (2) 在校時間管理システム（きんむくん）の適切な運用により、勤務時間の超過を削減する。